

評価者	都市整備部長	伊藤 昌裕
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道資源の有効利用
目標とすべきま ちの姿	終末処理場で発生した処理水や汚泥の資源化が効率的に実施されており、より効率的な下水道事業を進めています。 また、終末処理場等の建物上部の未活用スペースは市民により多目的に利用されており福利厚生にも役立てられています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	29.4%	平成27年度	33.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

<p>お金の使い方</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>使いすぎ</td> <td>ちょうどよい</td> <td>足りない</td> </tr> <tr> <td>必要以上の効果</td> <td>0.3%</td> <td>0.5%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>0.5%</td> <td>41.9%</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>効果不十分</td> <td>2.1%</td> <td>3.3%</td> <td>13.3%</td> </tr> </table> <p>平成26年度</p>			使いすぎ	ちょうどよい	足りない	必要以上の効果	0.3%	0.5%	0.2%	ちょうどよい	0.5%	41.9%	1.6%	効果不十分	2.1%	3.3%	13.3%	<p>お金の使い方</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>使いすぎ</td> <td>ちょうどよい</td> <td>足りない</td> </tr> <tr> <td>必要以上の効果</td> <td>0.3%</td> <td>1.1%</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>0.4%</td> <td>42.6%</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>効果不十分</td> <td>1.1%</td> <td>2.7%</td> <td>10.3%</td> </tr> </table> <p>平成27年度</p>			使いすぎ	ちょうどよい	足りない	必要以上の効果	0.3%	1.1%	0.4%	ちょうどよい	0.4%	42.6%	1.1%	効果不十分	1.1%	2.7%	10.3%	<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と応えた割合が平成27年度は約43%と選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金の使い方が「足りない」仕事の効果が「不十分」の10.3%であり、それ以外は低い数値となっている。このことから市民意識では、概ね妥当という印象であるが、一部で「もっと力を入れるべき」との意見があることが伺える。</p>
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない																																	
必要以上の効果	0.3%	0.5%	0.2%																																	
ちょうどよい	0.5%	41.9%	1.6%																																	
効果不十分	2.1%	3.3%	13.3%																																	
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない																																	
必要以上の効果	0.3%	1.1%	0.4%																																	
ちょうどよい	0.4%	42.6%	1.1%																																	
効果不十分	1.1%	2.7%	10.3%																																	
<p>仕事の効果</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>必要以上の効果</td> <td>ちょうどよい</td> <td>効果不十分</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>0.3%</td> <td>41.9%</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>0.3%</td> <td>42.6%</td> <td>10.3%</td> </tr> </table> <p>全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)</p>					必要以上の効果	ちょうどよい	効果不十分	平成26年度	0.3%	41.9%	13.3%	平成27年度	0.3%	42.6%	10.3%																					
	必要以上の効果	ちょうどよい	効果不十分																																	
平成26年度	0.3%	41.9%	13.3%																																	
平成27年度	0.3%	42.6%	10.3%																																	

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	19.6%	42.9%	2.4%	35.1%	100.0%
平成27年度	17.3%	41.9%	1.7%	39.1%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

引き続き下水道資源の有効活用について検討を行う。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
整理番号	事業名							
事業なし					2,301	2,335	0.3	0.3

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】
 汚泥焼却灰を建築用資材として有効利用した。
 下水処理水(中水)を車両洗浄水として有効利用することについて、JR東日本と協議を行った。

【実施できなかった事業とその理由等】
 協議が整わず、費用対効果が得られないことになった。

(4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>
 汚泥焼却灰について、建築用資材として有効利用を図った。また、中水の有効利用についてJR東日本と協議を行ったが、実施には至らなかった。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

汚泥焼却灰については、引き続き建築用資材として有効利用を図り、中水の再利用については、継続して検討する。用地や施設の一部を活用した太陽光発電、小水力発電については、現段階では、費用対効果が得られないため今後の社会情勢や技術革新を注視していく。また、スポーツ施設の整備は、スポーツを所管するセクションの検討に協力する。

4 平成28年度の目標

引き続き下水道資源の有効活用について検討を行う。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	事業名		単位					指標の傾向	備考
指標の内容	当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
		目標値							
		実績値							
		達成率							

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <p>・山崎浄化センター汚泥焼却設備等の、老朽化対策を講じる必要がある。</p>	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>平成27年度に山崎浄化センター汚泥焼却設備棟の改築工事に着手した。平成29年度中の完成を目指して工事を進めている。また、その他の設備についても順次改築工事を行う予定である。</p>
---	---	--

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・コスト意識を持って事業を推進している。
- ・汚泥焼却灰が建築用資材として有効活用された。また、処理水の利用についても検討している。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	1	↘	0	→	7	⇒	→			
効果	○	0	△	1	—	7		—			

《課題》

- ・終末処理場等の建物上部の多目的利用の実現が求められる。
- ・結果に対する原因・理由が明確でないため、評価できない。情報公開のあり方を考えることが求められる。

《提言》

- ・中水の有効活用については更なる折衝・再検討を進めたい。JRの事例はかなわなかったとあるが、今後も民間などと協力をして模索すべきである。
- ・下水道資源を有効活用する施策は広く市民に知られていないため、広報活動を進め、市民への周知を図るべきである。
- ・洗車場を作って中水を利用することはできないか検討すべきである。